

花の台学童保育ホール

HANANODAI GAKUDOU

このサイトを検索[ホーム](#)[入室募集](#)[お知らせ](#)[花の台って？](#)[よくあるご質問](#)[ホールだより](#)[花の台コラム](#)[イベント](#)[ご支援のお願い](#)

肉食系2年男子。

春夏秋冬くるっとまわって思いを巡らす花の台学童ホール。

「花の台学童ホールとは」

- ・「ただいま」と帰ってきて、子どもたちがホッとして安心できるホール異年齢の子どもたちのあそび・生活づくりを通じて、ケンカをしても仲直りできる力を育てていきます。
- ・父母会活動や行事を通じて、働きながら子育てしている仲間として、親同士も絆を深め、地域に根ざす活動をしていきます。
- ・子どもたちをまん中に父母と指導員がともに子育てを。そして大人も育てられます。

この「花の台学童ホールとは」果たしてホント???



【一年目春】

3/31で保育園は終わり、次の4/1から学童に通い始める。

これって当たり前のことだけど、親も子も想像以上の緊張感。

緊張感をまとめて学童のドアを開けると、「おはよう！！」という声とともに、上級生と指導員さんが当たり前のように、ごく自然にずっと前からの仲間のように迎えてくれる。

親も子も安心できる学童ホールはここから始まった。

迎えに行った時のこどもの顔は満足感いっぱいだった。

そして、学童でのお泊り会。こどもたちと指導員さんで学童に一泊する。

学校終わりの学童の生活から、そのままお風呂屋さん、夜ご飯、就寝、朝ごはんは大興奮の一泊二日。



テンションがあがった子どもたちに付き合ってくださいる指導員さんにとってはなかなかの苦行(笑)だが、子どもたちはさらに学童に対する「生活感」を増すのだろう。

【一年目夏】

夏休み。

花の台学童ホールの大イベント、夏の親子キャンプ。

ここから、家庭以外のこどもの生活に関わってこなかった父の学童満喫生活の始まり。

ひょんなことからキャンプの係となった我が家。なりゆき上、父が係を担当しキャンプを通して他の父母と交流を持ち始める。

母があきれほど学童の父母活動にご執心。

世の中にイクメンなんて言葉があるけれど、この「イクジ」は「育児」じゃなくて、「育自」会社と家庭の世界しかなかったところに、新たな世界が加わった。

キャンプから帰ってきた彼の顔には、程よい疲労と充実感が。



そして、もうひとりの彼（子）の顔は、先入観もあいまってなんていうかいつもよりちょっと頼もしく男らしくなっていた。

夏休みの生活。

上級生が彼の学童の母と呼ばれるほどおおいに助けられ、毎日毎日満喫していた。

学童の母、ありがとう！ お世話になりました。

我が家には保育園児の弟がいる。

今、保育園では異年齢活動が盛ん。上の子も下の子も異年齢で学ぶ事は多いのだという。

学童はこれを地でいっている。

長い夏休みの生活は、大勢の中で自分のあり方、身の置き所、人との関わり方などなど、自然に身についていく。上級生も下級生も社会生活を学ぶいい機会だ。

しかし、自宅でセミの羽化を見ることになろうとは・・・ これも学童のおかげ(汗)

【一年目秋】

秋の学童イベントは、こどもまつり&バザー。

一年目のこどもまつり&バザーは、両親の仕事の関係で参加できず、それを伝えたときの彼の残念そうな顔は今でも覚えている。学童生活が充実していることを目の当たりにしたひとコマだった。

そして秋と言えば台風シーズン。

学校は朝6時時点で暴風警報が解除されていなければ臨時休校。台風が行き過ぎてどんなに晴れていようとも。

しかし、これが自主学童の強み、指導員さんがいかに親に寄り添ってくれているかという証。

この状況で仕事を休めないだろうという親の立場を理解し学童を開けてくれる。

そしてこどもたちは、イレギュラーなお昼ご飯用のカップ麺を持参しての登室。この「たまに」感がたまらなく楽しいのだ。

【一年目冬】

冬といえばクリスマスに忘年会、お正月。

忘年会といえば大人のお楽しみ。大人のお楽しみはそこここで書かれているからサラッと。

簡単に言うと、忘年会じゃなくても楽しく騒いでいるから、あえて忘年会で騒がなくてもいいかも(笑) そして、やはり父はどこの忘年会よりも楽しかったらしい・・・

お正月の遊びと言えば独楽。冬の学童は独楽一色となる。

どんなものかと思った独楽は彼の得意分野だったらしく、なかなかの腕前。

その腕前は後々、彼の学校生活におおいに役立つこととなった。

ちょっと短いけど、冬休みの生活もイベントあり。

スケートがそのひとつ。

スケートもイベントだけど、スケートに行く日は買い弁の日。自分でお弁当を買って食べるのだ。

外食をすることはあっても、自分で自分の食べたいものを決め、自分で買って食べる。

なかなか、家での生活では体験できない、親が体験させていない？ことのひとつ。

前日に、「オムライスは何せんえん？(何千円)」と聞かれたときは、なにか感慨深いものがあった。



そして、独楽一色の生活の集大成？ もちつき&親子独楽対決。

親も手加減なし。むしろ手加減してもらわないと勝てる要素全くなしのこどもたちの独壇場。親も子もシンケンそのもの。

シンケンに臼と杵でおもちをつき、シンケンに独楽を回す。

そして、シンケンに独楽対決に負ける親たち(笑)

【二年目春】

春休み。

4月になれば新一年生が入ってくる。彼の一番年下っ子の生活も残りわずか。

春休みには、映画を見に行く。

いつもと同じ映画館での映画も親と行くのとは違った楽しみがあり、ここでも学童の母はじめ多くの上級生に助けられた。

3月末には、彼をそこかしこで助けてくれていた上級生から6年生を含む数名が卒室。

卒室進級お祝い会では、我が子の進級を祝う以上に寂しさが・・・

そして彼にとっては、今まで当たり前のようにいた人たちがいなくなるというまた新たな貴重な経験。

同時に新一年生が入ってきて、楽しさ反面、照れくささ反面の新二年生。

たくさんの上級生にお世話になった彼は、今度はちょっと上級生になり、学校が始まる前の数日間、新一年生と学童まで一緒に行くという役を全うし、なんでもないけどね。という顔をしながらも大きな自信になったことは間違いない。



【二年目夏】

さあ、待望の夏休み。

学校行かないで、朝から学童。 時にはおでかけ、時にはお昼ごはん作り。時には勉強(笑)

彼にとっては充実この上ない日々。学童の前で学童の鍵が開くまで何時間待ってもいいから早く行きたくてたまらない。

そしてキャンプ。

二年目も我が家はキャンプの係。

この学童のこどもたちは全部自分のこどもと同じ。を実感するキャンプ。

お世話もするし、注意もするし、大大家族のようなもの。

いつの間にか、我が子以外のこどもの呼び方も愛称や呼び捨てに。

一年目の春に、通い始めたばかりの彼が上級生や指導員さんを愛称や呼び捨て呼んでいることにびっくりしたが、その理由がわかった気がした。

ちなみにこどもたちは、自分の親以外の親を**父・**母と呼ぶ。（**は子どもの呼称）これもまた学童ならではの？！

この年の夏、我が家で羽化したセミはトータル4匹・・・（汗）

【二年目秋】

待ちに待ったこどもまつり&バザー。

準備は大変、けどなんだかかわからないけど楽しい。

親は少しだけこどもの気分で、子は少しだけおとなの気分でいいお天気の中、親も子も充実した日曜日。

父母の活動が大変だっていうけれど、こんなに心地いい大変って、こんなことでもないと思わえないはず。

驚いたのは、学童を卒室したご家族の参加（お手伝い）が多いこと。

でもなんかわかるその気持ち。この時期になったら、行かないわけにはいかないって気分になるのだろうか、きっと。

春夏秋冬くるくるっとまわって、いまは【二年目冬】の途中。

先日は、同じ班の1年生がまわせなかった独楽をまわせた。と自分のことのように喜び笑顔で報告が。

一年目の冬は、逆の立場で上級生に喜んでもらったのだろう。

そして、この年末に書いた学童宛の彼の年賀状には、指導員さんの愛称と「いつもやさしくしてくれてありがとう」の言葉があった。

彼の春夏秋冬はあと何回まわってくるのだろうか。

流行語のようだが「ありのままの自分」でいられる学童生活は、彼のこれからの人生における大きな糧になるだろう。



ここまで読んでくださってありがとうございます。

最初に書いた「花の台学童ホールとは」は、どう感じられたでしょうか。

少なくとも我が家にとっては、その通りの「花の台学童ホール」です。

肉食2年男子しゅんぺい父/母

花の台学童保育ホールは川崎市宮前区にある自主共同の学童です。

〒216-0003 神奈川県川崎市宮前区有馬2丁目9-4

TEL:044-877-5304 / e-mail: info.hananodai@rhythm.ocn.ne.jp

Copyright(C)2014 Hananodai-Gakudou All Rights Reserved.

[不正行為を報告](#) | Powered By [Google サイト](#)